

社会的企業研究会 2018 年度事業報告

(2018 年 6 月 1 日から 2019 年 5 月 31 日まで)

社会的企業研究会では、日本における社会的連帯経済のネットワークの構築を目標として、昨年度に引き続き、日本や諸外国における生活困窮者の社会的包摂や仕事起こしをミッションとした社会的企業、中間支援組織に関する研究会を重ねてまいりました。また、若者と協同組合・社会的企業との接点となるべく、非営利・協同組織のしごと研究会の開催、協同組合インターンシップの側面支援のほか、引き続き、若い研究者の事務局への登用などの取り組みも継続的に実施しました。その結果、これまでの研究データの整理・活用への準備、ホームページの刷新・更新など長年の懸案事項が解消されつつあります。

2018 年度は以下の研究会を開催し、国内外の社会的企業、社会的連帯経済に関する知見を蓄積、かつ、発信してまいりました。

1. 研究会活動

- 第 98 回研究会 日時：7 月 15 日（日）14:30～17:00 会場：明治大学駿河台キャンパス
報告：「日本における協同組合間連携の現状と今後の可能性」
前田健喜氏（JCA 協同組合連携部長）
報告：「協同組合間協同で働き方・生き方を変える～“よいしごとステーション”の実践から」
北川裕士氏（ワーカーズコープ 東京中央事業本部事務局長）

- 第 99 回研究会 日時：12 月 21 日（金）17:00～20:00 会場：明治大学駿河台キャンパス
報告：「2018 年 GSEF ビルバオ大会—協同組合はグローバル資本主義に対抗できるのか？」
白井和宏氏（一般社団法人 市民セクター政策機構専務理事）
報告：「RIPESS の動向から社会的連帯経済を考える」
田中滋氏（NPO 法人 アジア太平洋資料センター理事）
報告：「連帯経済の社会化と労働者協同組合設立の環境設定」
相良孝雄氏（一般社団法人 協同総合研究所事務局長）

- 若人の会・特別回 日時：2 月 25 日（月）17:30～20:00 会場：明治大学駿河台キャンパス
報告：「伴走実践に取り組む非営利・協同組織が提起するものは何か」
菰田レエ也氏（一橋大学大学院 博士後期課程所属）
報告：「引きこもり支援の現状と課題」
半田諒志氏（一橋大学大学院 博士前期課程所属）

【概要】

・GSEF ビルバオ大会概要、RIPESS の動向、スペインでの社会的連帯経済や市民運動に関する視察報告といった国際的な社会的連帯経済に関する報告会の開催

- ・日本における協同組合間協同の現状と課題、生活困窮者との伴走に取り組む社会的企業の実態や引きこもり支援の現状や課題など、国内での協同組合や社会的企業の動向及び支援に関する報告会の開催

2. 人材育成活動

● 第4回 NPO・協同組合のしごと説明会（インターンシップ）

日時：10月14日 15:00～17:30 会場：明治大学駿河台キャンパス

主催：生活サポート生活協同組合・東京

協力：社会的企業研究会

3. その他

- 自由学校 連続講座「奪い合いの経済から支え合いの経済へー米国アジア系移住労働者の市民連帯」
共催企画：アジア太平洋資料センター（PARC）・社会的企業研究会

- シャキ飯の紹介（今年度はなし）

4. 総会・運営委員会

- ・ 7月15日（土）に第7回総会（13:00～14:30）と、第98回社会的企業研究会（14:30～17:00）を明治大学駿河台キャンパスで開催しました。
- ・ 役員会を適時開催し、研究会の企画立案、ニュース・レターの編集、ホームページの作成、個人・団体会員の会員拡大など安定的な事業の執行を行っていきました。
2018年度では、昨年度に引き続き、大学院生も事務局運営に積極的に関与。ホームページの更新作業は継続させることができました。

5. 情報発信について

- ・ リニューアルしたホームページを通じて、研究会情報の発信を一層進めました。昨年度に引き続き、研究会ごとに参加者より、報告と感想をいただき、掲載することができました。各会の研究会に関しては、記録を着実に残すことを心がけました。
- ・ 月に1回ニュース・レターはホームページを活用することと致しました。
- ・ 過去の研究会の成果についても、今後、ホームページでの公開等ができるように努めてゆきます。

6. 内外の関係組織の交流について

- ・ 研究会の趣旨に照らして、内外の研究者・実践者の横断的交流をめざしてまいります。
- ・ この会の発足の契機となった国際的な研究ネットワーク（モンブラン会議、EMES、RIPESS、GSEF等）については、必要に応じて連携しています。また、社会的企業研究会を構成している諸団体、並びに関西の地域共生型経済推進フォーラムやソウル宣言の会等とも連絡をとり情報交換しています。

7. 事務局について

引き続き、広がる活動を支えるため、大学院生の協力を得て、事務局を担ってもらっています。

以上

2018年度収支決算書(2018年6月1日～2019年5月31日)

(単位:円)

大勘定科目	中勘定科目	2018年度予算額	2018年度決算額	2018予算-2018決算	備考
繰越財産等収入		472,655	472,655	0	
	繰越金	472,655	472,655	0	
	(うち基本財産)	65,535	65,535	0	
会費収入		402,500	298,500	104,000	
	団体会費収入	310,000	240,000	70,000	未収金 70000円
	個人会費収入	82,500	55,500	27,000	
	参加費収入	10,000	3,000	7,000	
その他収入		6,000	6,001	△ 1	
	その他の収入	6,000	6,001	△ 1	
当期収入合計 (A)		881,155	777,156	103,999	

2.支出の部

(単位:円)

大勘定科目	中勘定科目	2018年度予算額	2018年度決算額	2018予算-2018決算	備考
事業費		465,000	250,083	214,917	
	研究会会場費	30,000	24,300	5,700	
	印刷費	5,000	0	5,000	
	謝金	150,000	110,000	40,000	含む旅費
	雑費	10,000	0	10,000	
	総会費	20,000	7,459	12,541	
	会議費等	20,000	22,000	△ 2,000	運営委員会等
	団体交流費	150,000	50,000	100,000	
	広報費	50,000	21,000	29,000	HP制作費・管理費
	渉外費	30,000	15,324	14,676	
100回記念基金		300,000	0	300,000	
予備費		50,000	0	50,000	
当期支出合計(B)		815,000	250,083	564,917	
次年度繰越金合計(c)		66,155	527,073	△ 460,918	基本財産含む

2019年度収支予算書(2019年6月1日～2020年5月31日)

1.収入の部

(単位:円)

大勘定科目	中勘定科目	2019年度予算額	2018年度予算額	2019予算-2018予算	備考
繰越財産等収入		527,073	472,655	54,418	
	繰越金	527,073	472,655	54,418	
	(うち基本財産)	65,535	65,535	0	
会費収入		331,000	402,500	△ 71,500	
	団体会費収入	260,000	310,000	△ 50,000	10,000×11、50,000×3
	個人会費収入	66,000	82,500	△ 16,500	3,000×20 1,500×4
	参加費収入	5,000	10,000	△ 5,000	
その他収入		0	6,000	△ 6,000	
	その他の収入	0	6,000	△ 6,000	
当期収入合計(A)		858,073	881,155	△ 23,082	

2.支出の部

(単位:円)

大勘定科目	中勘定科目	2019年度予算額	2018年度予算額	2019予算-2018予算	備考
事業費		438,000	465,000	△ 27,000	
	研究会会場費	30,000	30,000	0	
	印刷費	2,000	5,000	△ 3,000	資料印刷
	謝金	150,000	150,000	0	含む旅費
	雑費	1,000	10,000	△ 9,000	切手代等
	総会費	20,000	20,000	0	
	会議費等	25,000	20,000	5,000	運営委員会等
	団体交流費	150,000	150,000	0	国際交流等
	広報費	30,000	50,000	△ 20,000	
	渉外費	30,000	30,000	0	
100回記念基金		300,000	300,000	0	
予備費		50,000	50,000	0	
当期支出合計(B)		788,000	815,000	△ 27,000	
次年度繰越金合計(c)		70,073	66,155	3,918	基本財産含む

現金出納帳
(2018年6月1日～2019年5月31日)

日付	科目	摘要	収入金額	支出金額	残高
6月1日	繰越金	(但し30万円は100回記念基金)	472,655		472,655
6月1日	個人会費	原田	3,000		475,655
6月8日	個人会費	角崎	3,000		478,655
6月15日	講師謝金	Watt Noyes		20,000	458,655
6月14日	運営委員手当	11人		11,000	447,655
6月22日	団体会費	老人給食	10,000		457,655
6月22日	個人会費	小関	3,000		460,655
6月22日	団体会費	市民セクター	50,000		510,655
6月22日	団体会費	WNJ	10,000		520,655
6月25日	個人会費	三輪	3,000		523,655
6月25日	個人会費	津富	3,000		526,655
6月25日	個人会費	一柳	1,500		528,155
6月25日	個人会費	堀	3,000		531,155
6月26日	団体会費	日本労働者協同組合	10,000		541,155
6月28日	団体会費	ワーカーズ・コレクティブ協会	10,000		551,155
6月29日	団体会費	労福協	10,000		561,155
6月29日	団体会費	エス・エス・エス	10,000		571,155
7月2日	団体会費	協同総合研究所	10,000		581,155
7月3日	個人会費	幸田	3,000		584,155
7月10日	団体会費	生協総研	10,000		594,155
7月10日	個人会費	志波	3,000		597,155
7月10日	団体会費	地域生活研究所	10,000		607,155
7月15日	広報費	菰田		5,000	602,155
7月15日	講師謝金	前田、北川		40,000	562,155
7月15日	会場費			14,040	548,115
7月15日	個人会費	キムボラム	1,500		549,615
7月15日	個人会費	藤木	3,000		552,615
7月15日	個人会費	菰田	1,500		554,115
7月15日	個人会費	津村	3,000		557,115
7月15日	個人会費	澤口	3,000		560,115
7月15日	個人会費	柳沢	3,000		563,115
7月15日	個人会費	米倉	3,000		566,115
7月15日	個人会費	藤井	6,000		572,115
7月15日	渉外費	ナポリの下町食堂		43,459	528,656
7月15日	渉外費	懇親会負担金	36,000		564,656
7月15日	参加費	6人	3,000		567,656
7月25日	団体会費	日本協同	50,000		617,656
7月27日	個人会費	桔川	3,000		620,656
8月3日	団体会費	農林中金総研	50,000		670,656
8月20日	団体交流費	ターンシップ@協同組合協賛金		50,000	620,656
11月1日	広報費	菰田、藤木、志波		11,000	609,656
11月1日	運営委員手当	11人		11,000	598,656
11月1日	個人会費	栗本	6,000		604,656
11月1日	個人会費	白井	3,000		607,656
12月21日	講師謝金	白井、田中、相良		30,000	577,656
12月21日	会場費	明治大学		10,260	567,396
2月9日	利息		1		567,397
2月25日	講師謝金	菰田、半田		20,000	547,397
2月25日	広報費	菰田		5,000	542,397
5月21日	渉外費	大村葬儀社		15,324	527,073

財産目録

[税込] (単位: 円)
2019年 5月31日 現在

《資産の部》	
【流動資産】	
(現金・預金)	
現金	0
預金	527,073
労働金庫	(527,073)
現金・預金 計	527,073
(その他流動資産)	
未収金	0
個人会費	(0)
団体会費	(0)
その他流動資産 計	0
流動資産合計	527,073
資産の部 合計	527,073
	=====
《負債の部》	
【流動負債】	
前受金	0
預り金	0
流動負債 計	0
負債の部 合計	0
	=====
正味財産	527,073
	=====

社会的企業研究会 2019 年度事業計画

(2019 年 6 月 1 日から 2020 年 5 月 31 日まで)

社会的企業研究会では、2005 年から、日本における社会的連帯経済のネットワークの構築を目標として、とりわけ近年は、以下の三つの柱を中心に研究会を重ねてまいりました。

- ①韓国・英国その他の国際的な社会的企業に関する研究会、また、GSEF・RIPESS・EMES といった国際的な社会的連帯経済のネットワークでの研究動向に対する報告会の開催
- ②生活困窮者支援等に関わる社会的企業やその基盤となっている中間支援組織や制度に関する現場に即した実践的研究の蓄積と報告
- ③社会的企業について実践的な研究を行う若手研究者を応援することを目的とした若手研究者の発表会（若人の会）の開催、協同組合・社会的企業に関するキャリア支援を目的とした「非営利・協同組織のしごと研究会」の開催や協同組合インターンシップの支援

2019 年 7 月 21 日に、節目の 100 回目の研究会を迎えるにあたり、これまでの社会的企業研究会の歩みを振り返り、国内外の社会的連帯経済の実践や研究から、我々は、何を学ぶことができたのか、或いは、何を未だに学ぶことができていないのかを明らかにした上で、これからの日本社会において、社会的連帯経済の促進を可能にするための制度上、或いは実践上の課題や可能性について引き続き検討し、明らかにしていきたいと考えます。

とりわけ、今後は、国内外におけるネットワークをより豊かに構築していく必要があります。すなわち、日本国内においては、同じく、社会的連帯経済の促進をミッションとするソウル宣言の会、共生型経済推進フォーラム、資本主義再考研究会（RC 研）などとの連携を深めながら、日本における社会的連帯経済のプロットフォームづくりを模索します。また、国際的な社会的連帯経済に関する運動、或いは研究上のネットワークとしては、GSEF、RIPESS、EMES といったネットワークに引き続き参加し、日本における社会的連帯経済の可視化のためのマッピング調査等を実施し、世界に対する情報発信を積極的に行っていきたいと考えます。

1. 2019 年度における研究会企画（案）

1) 松岡公明（農林年金理事長）さんをしのぶ会

☞日本の農協運動・農民運動の先頭に立ち続け、JC 総研常務理事、農林年金理事長等を歴任し、本会の監事や運営委員を長年にわたって担って頂いた松岡公明さんが白神山地での滑落事故で急逝されました。松岡さんの協同組合研究の足跡や農協への熱い思いを関係者とともに振り返りつつ、松岡さんの協同組合思想を受け継いでいく会を開催します。

2) 韓国における社会的経済と民主主義の今（白石孝さん）

☞日韓関係が、政府レベルにおいては最悪な状態にあると言われる昨今、著書『ソウルの市民民主主義—日本の政治を変えるために』を書かれた白石孝さんをお招きし、ソウルの市民民主主義から我々が学ぶべきことは何か、そして、東アジアにおける社会的連帯はいかにして可能になるのか考えたいと思います。

3) (仮称) 労働者協同組合法をどのように活用するか

☞次の臨時国会での成立が期待される(仮称)労働者協同組合法は、日本で社会的連帯経済を発展させていく上で、どのような意味があるのか、(仮称)労働者協同組合法の活用方法について検討します。

4) 社会的連帯経済における連帯や互酬性、そして協同労働を問い直す

☞ILO創設100周年の今年、改めて社会的連帯経済における労働の意味や可能性について、大高研道(明治大学政治経済学部)さんにご報告いただきます。

5) 社会的企業研究会100回記念書籍(後述)の出版記念会

6) 香港の有機農業運動と社会的連帯経済

☞安藤丈将(武蔵大)氏

以上のほか、若手研究者による「若人の会」、国内・海外社会的連帯経済調査報告を、適宜、「特別研究会」として開催いたします。

2. 出版計画

現在、編集作業中の社会的企業研究会100回の軌跡を基盤とした社会的連帯経済に関する書籍の完成と発行(執筆者:金宝蘭・菰田レエ也・相良孝雄・田中滋・田中夏子・原田晃樹・藤井敦史、2019年中の発行を目指す)

3. 運営委員会

役員会を適時開催し、研究会の企画立案、ニュース・レターの編集、ホームページの作成、個人・団体会員の会員拡大など安定的な事業の執行を行っていきます。

4. 情報発信について

- ・リニューアルしたホームページを通じて研究会情報の発信を一層進めます。
- ・各回の研究会に関しては記録を着実に残すことを心がけます。
- ・月に1回ニュース・レターを作成し、研究会各回の振り返り情報などを蓄積していくことで、上記ホームページを充実させていきます。
- ・過去の研究会の成果についても、今後、ホームページでの公開等ができるように努めます。

5. 内外の関係組織の交流について

- ・研究会の趣旨に照らして、内外の研究者・実践者の横断的交流をめざしていきます。
- ・この会の発足の契機となった国際的な研究ネットワーク（モンブラン会議、EMES、RIPESS、GSEF 等）については、引き続き必要に応じて連携します。また、社会的企業研究会を構成している諸団体、並びに関西の地域共生型経済推進フォーラムやソウル宣言の会等とも連絡をとっていきます。

6. 事務局について

事務局については、大学院生にアルバイトとして手伝っていただきながら、多様なネットワークで運営していきます。

以上